

教育研究業績書		
令和 3 年 3 月 31 日 氏 名 樋口 勝一		
印		
研究分野	研究内容のキーワード	
リメディアル教育、キャリア教育、大学教育、素粒子論	SPI、数学、就活、公務員、教員、クォーク	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例 1) 大人数古典的双方向スパイラル授業の実践	平成 26 年 4 月 ～平成 31 年 3 月	基盤教育科目「数的処理の基礎」、「入門物理学 1・2」において、70～300 名超の受講者に対応するため、「基礎内容とする」、「オリジナル演習型テキストと対応小テストで繰り返しドリル学習」、「授業開始時・終了時の挨拶励行などマナー強化」、「授業評価の厳格化・透明化」、「座席指定」、「コメントシートの利用」、「机間巡視」を取り入れた古典的スパイラル授業を実践した。学生アンケート結果では学生評価平均が 5 段階で 4 程度と大人数授業としては満足の得られるものとなった。
2) 情報リテラシー科目における複数クラスのマネジメントマニュアルの作成と利用	平成 26 年 4 月 ～平成 31 年 3 月	基盤教育科目「コンピュータ入門 1・2」において、各 13 クラス程度の複数クラスを複数の専任教員・非常勤教員、委託教員が担当している。「同じ名称の授業は同じ品質と内容を提供すること」を目標に、それら科目の取りまとめ役として、「授業実施マニュアルの作成（授業進行表、統一教材など配布資料、詳細な授業評価表を含む）」を作成した。これをもとに、各教員に授業をおこなってもらい、そのマネジメントをおこなった。結果として、これまで、ばらばらに行われていた本科目の指導が、統一的に実施可能となった（平成 26 年度～平成 31 年度まで。平成 25 年度以前は神戸海星女子大学においても実践）。
3) 自学自習勉強会の実施	平成 27 年 4 月 ～令和 2 年 3 月	正課外授業として「自主勉強会」を開催した。「秘書検定合格」、「公務員合格」、「教員採用試験合格」などをめざした学生が集い、お互い刺激を受けながら各自で勉強をおこなう学習会である。

4) 検定取得を動機づけとした指導実践1	平成 27 年 4 月 ～平成 31 年 3 月	秘書検定合格、教採合格、大手鉄道会社就職、幹部自衛官合格などの実績がある。  追手門学院大学基盤教育科目「コンピュータ入門 1・2」において、検定（日本語ワープロ技能標準試験 2・3 級、表計算技能標準試験 2・3 級）取得を動機づけに指導を行った。4 年間で延べ 588 名の合格者を輩出した。（平成 25 年度以前は神戸海星女子大学においても実践し、合格者を輩出している）。
5) 検定取得を動機づけとした指導実践2	平成 31 年 4 月 ～令和 2 年 3 月	甲子園大学総合教養科目心理学部必修「情報処理演習 I・II」において、心理学部学生対象に上記と同様の指導をおこなった。実質受講者 65 名中、のべ 122 名が受験申し込みを行い、のべ 105 名の合格が見込まれる。当該授業を受講したことで、およそ 2 つの検定に合格したことになる。
6) 検定取得を動機づけとした指導実践3	令和 2 年 4 月 ～令和 3 年 3 月	甲子園短期大学総合教養科目「情報処理 I A・I B」においても同様の指導を行い、1 年間で延べ 30 名の合格者を輩出した。
2. 作成した教科書、教材 1) パソコン標準試験対策ポイント&過去問集冊子  2) 教員採用試験対策ガイドブック	平成 27 年 4 月 ～令和 2 年 3 月  平成 26 年 4 月 ～平成 29 年 3 月	「コンピュータ入門 1・2」や「情報処理演習 I・II」における検定対策教材を作成した。  教職支援センターにおける学生指導のためのガイドブックを作製した。
3. 教育上の能力に関する大学等の評価 1) 大学における教員評価制度による評価  2) 授業改善の取り組みに対する評価	平成 30・31 年度  平成 31 年度	追手門学院大学において、平成 30・31 年度ともに「A」評価を受けた。  追手門学院大学基盤教育科目「数的処理の基礎」の授業改善について大学執行部より評価を受け、全学教授会において FD 改善事例としてその報告をおこなった。
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		
5. その他		

職務上の実績に関する事項				
事 項		年 月 日	概 要	
1. 資格、免許				
2. 特許等				
3. 実務の経験を有する者についての特記事項				
4. その他				
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 4. 繰り返して慣れる！Office 演習ドリル2016対応全 489 題	単著	平成 30 年 1 月	ノア出版 (全 185 ページ)	Windows, Word, Excel, PowerPoint, Email, Internet ソフトの学習書. 特に, ドリル問題が多数あり, 問題を数多く解くことで理解を深められるが特徴である. Windows 10, Office2016 に対応している.
(学術論文) 1. 教員採用試験受験指導における学生データの活用	単著	平成 28 年 5 月	追手門学院大学教職支援センター年報第 1 号(2015 年度)pp.8-15	開放制教職課程認定大学での教採対策におけるデータの収集とデータ活用の取組を時系列に報告した. 本学の教職課程は学年進級時に履修ハードルを設けていないため, 1 年次に教職課程に登録した学生は卒業時まで登録となったままである. そのうちの多くは, 教員採用試験を受験しない. そういった学生と本気で教員を目指す学生をデータによってグループ化して適切な指導を行った事例を報告した.
2. 大学生の入学時における情報基礎力と一般教養科目における情報基礎授業内容	単著	平成 28 年 8 月	追手門学院大学情報メディア課年報第 1 号(2015 年度)pp.10-19	大学生の入学時における情報基礎力を推定するための現状分析をおこなった. 旧学習指導要領と現行学習指導要領では, 「情報」を指導することとされているが, その学習量は, 小学校では対象教科が存在せず, 中学校では技術・家庭科のうちの 1 分野に過ぎないこと, 高校では情報基礎レベルの科目が必修であるものの, それらは選択制で選択によって学習した内容が異なる

<p>3. 児童期の異世代交流体験が及ぼす効果に関する意識調査の分析(資料)[査読あり]</p>	<p>単著</p>	<p>平成 29 年 1 月</p>	<p>日本世代間交流学会誌第 6 巻第 1 号, pp.59-68</p>	<p>ることがわかった。また、全国学力・学習状況調査の数学を例にして大学全入時代における大学生の数学基礎学力の低下を示すことで、情報基礎力も同様の結果になると推定した。 兵庫県内在住 225 人を標本として、子どもの頃の体験活動についてのアンケート調査をおこない、その中の異世代交流活動についての評価・未体験率を分析した。今回注目した 7 つの異世代交流体験は年代、性別、在住地域、兄弟姉妹の有無にかかわらず、どのような集団からも大人になって役立つものであったとされた。</p>
<p>4. Prediction of exotic fermion masses by discovery of a new particle</p>	<p>単著</p>	<p>平成 29 年 3 月</p>	<p>追手門学院大学基盤論集 NO.4 p.1-5</p>	<p>SU(2)ダブレットレプトンを含む模型について、USY の枠組みで議論した。もし、LHC 実験において 750GeV 程度の質量を持つスカラー粒子が見つかったと仮定した場合におけるエキゾチックフェルミオンの質量を予測した。その結果、6 つが 1TeV 程度、4 つが 5-8TeV 程度の質量を持ちうる事が判明した。</p>
<p>5. 就職試験における数的処理分野の出題状況と出題意図についての考察</p>	<p>共著</p>	<p>平成 29 年 3 月</p>	<p>一貫連携教育機構紀要第 3 号(追手門学院大学一貫連携機構) pp.49-56</p>	<p>就職適性試験や公務員・教員採用試験の出題傾向を調査し、その出題意義について考察した。まず出題傾向調査方法とその結果と考察をおこなった。次にこれらの調査に基づいて、小学校・中学校・高等学校の各学習指導要領と経済産業省の提唱する社会人基礎力を手掛かりにその出題意義を考察した本研究の結論として、SPI3 や公務員といった就職試験における数的関連分野等の出題の意義としては、陶冶的目的によって培われる「人格」の測定と実用目的によって培われる「さまざまな活動の基礎となる知識・技能」の測定の 2 つがあるとした。</p>
<p>6. 昼休み数的処理・文章理解勉強会報告</p>	<p>単著</p>	<p>平成 29 年 4 月</p>	<p>追手門学院大学教職支援センター年報第 2 号(2016 年度)pp.29-32</p>	<p>2016 年度に教職支援センターがおこなった昼休み勉強会「数的処理と文章読解の基礎」について、その必要性、実施結果、今後の課題等について述べた。</p>
<p>7. 教職志望学生の進路変更事例とサポート体制づくりの提案</p>	<p>単著</p>	<p>平成 29 年 4 月</p>	<p>追手門学院大学教職支援センター年報第 2 号(2016 年度)pp.33-38</p>	<p>センターを訪問する学生の中で、入学時点で教員希望であったが 2 年時以降に希望進路が変更になるケースや、入学時点では教員希望ではなかったが 2 年時以降に教員志望に変更になるケースが数多く存在する。実際に、センターで指導する学生の中には、上記 2 つのケースに該当して自ら志望した職に就くことができた学生も複</p>

<p>8. 文部科学省「情報活用能力調査『高等学校』から読み取れることと大学における情報基礎教育のあり方</p>	<p>単著</p>	<p>平成 30 年 1 月</p>	<p>追手門学院大学情報メディア課年報第 2 号 (2016 年度)pp.5-10</p>	<p>数いる。本稿では、前者のケースを紹介し、進路変更学生にも対処できる体制づくりを検討する。 文部科学省「情報活用能力調査（高等学校）」から、入学時の大学生の情報基礎能力を読み取り、大学における情報基礎教育内容のあり方について考えてみた。大学生には、「文字入力」と「表計算ソフトを利用した簡単な計算」といった情報基礎能力が極めて不足していることが読み取れた。そのため、大学一般教養情報基礎授業の内容は、「リメディアル」と「リテラシー」を意識したものにならざるを得ないと結論づけた。</p>
<p>9. 就職試験における数的処理分野の出題傾向と対策</p>	<p>共著</p>	<p>平成 30 年 3 月</p>	<p>日本ビジネス実務学会近畿ブロック第 32 号 pp15-18</p>	<p>今回、小学校内容であっても実際には中学校 1 年生で学習する「一次方程式」を利用して解ける問題が多数あることが明らかになった。本研究は、これまで小学校内容を中心に指導すべきであるとの考察を変更し、「小学校で学習する数量関係などの概念を押さえつつ、一次方程式に関連する問題と、出題の 4 分の 1 を占める判断推理の基礎を第一に指導していくべきである」との結論に至った。</p>
<p>10. Mechanism on production of CP violating phases in VCKM at THDM within USY hypothesis</p>	<p>単著</p>	<p>平成 30 年 3 月</p>	<p>追手門学院大学基盤論集 NO.5 p.9-17</p>	<p>SUSY からの拡張モデルである THDM に USY 機構を課したモデルにおいて、CKM 行列がその phase も含め再現できることを数値で確かめた。</p>
<p>11. 実務家教員ニーズ調査に基づくチーム研究のあり方検討(特別寄稿)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 30 年 6 月</p>	<p>報告書 ビジネス実務論集 NO.37(日本ビジネス実務学会)pp.137-147</p>	<p>学会各ブロックの実務家教員に対して、インタビューによりそのニーズを調査した。「研究手法」、「論文の書き方」「授業運営全般」、「シラバスやルーブリックの書き方」などのニーズが複数あった。</p>
<p>12. 基盤教育科目「入門コンピュータ」における複数クラスのマネジメント</p>	<p>単著</p>	<p>平成 31 年 1 月</p>	<p>追手門学院大学情報メディア課年報第 3 号 (2017 年度)p.18-25</p>	<p>2015 年度より、「入門コンピュータ 1・2」の運営について、「学生の現状能力に合わせたオフィスソフトの基礎を内容として、複数クラスを統一的管理すること」を目標に改革を進めてきた。小目標として、 ①統一シラバス</p>

<p>13. 基盤教育科目「数的処理の基礎」の授業改善報告 1</p>	<p>単著</p>	<p>令和元年 3 月</p>	<p>追手門学院大学基盤論集 NO.6 p.139-147</p>	<p>②内容はオフィスソフトの基礎を中心にする          ③希望者全員が受講できること          ④パソコン関連検定（日本語ワープロ技能標準試験、表計算技能標準試験）の合格をめざすこと          ⑤関連部署との連携を図ること          ⑥上記についての授業運営マニュアルを作成すること</p> <p>を掲げた。これらについて、2018 年度末には達成される予定で、複数クラスのマネジメントがいったん完了することになる。授業の受講者数の増加に伴い、2017 年度より、双方向型授業と授業環境の維持とをねらって、「やる気度チェックシートの活用」と「座席指定の導入」を実施した。その効果を、全学授業アンケートのデータから分析した。</p> <p>その結果、前者は、満足度と理解度に対して効果があること、後者は、授業妨害防止に効果があることが推定できた。</p>
<p>14. 基盤教育科目「数的処理の基礎」の授業改善報告 2</p>	<p>単著</p>	<p>令和 2 年 3 月</p>	<p>追手門学院大学基盤論集 NO.7 p.89-94</p>	<p>授業の受講者数の増加に伴い、2017 年度より、双方向型授業と授業環境の維持とをねらって、「やる気度チェックシートの活用」と「座席指定の導入」を実施した。その効果を、全学授業アンケートのデータから分析した。</p> <p>その結果、前者は、満足度と理解度に対して効果があること、後者は、授業妨害防止に効果があることが推定できた。</p>
<p>15. Aspect of phenomena arising in various extended Standard Models within USY hypothesis [査読あり]</p>	<p>単著</p>	<p>令和 2 年 3 月</p>	<p>甲子園大学紀要 NO.47 p.1-5</p>	<p>我々がこれまで分析してきた 2 つの USY 機構による拡張標準模型の特徴を比較し、その長所と短所をそれぞれ明確に示した。</p>
<p>16. 学生の出席状況と授業評価の関係～情報処理演習Ⅱの結果から～ [査読あり]</p>	<p>単著</p>	<p>令和 3 年 3 月 掲載予定</p>	<p>甲子園短期大学紀要 NO.39 p.7-13</p>	<p>担当教員・方法・内容を統一された、また、受講生も同一学部・学科とされた 2 クラスの同一授業科目において、学生の出席率と授業評価の関係を分析した。その結果、「速度」、「難易度」、「量」といった具体的な項目と総合的な「授業満足度」について、出席率の高いクラスの方が、高い授業評価が</p>

<p>17. 秘書関連資格・検定取得の将来における効果 [査読あり] 研究ノート</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年3月 掲載予定</p>	<p>ビジネス実務論集 NO.39(日本ビジネス 実務学会)</p>	<p>得られることが判明した。 秘書士や秘書技能検定といったビジネス 関連資格・検定が多くの大学・短期大学で 指導されている。その理由を推定するため に、社会人対象の調査をおこなった。その 結果、これら資格・検定の内容は、専門的 な秘書に就くためのものというよりも、社 会人としての汎用的な一般知識・技能を養 成するためのものとして認知され、その取 得指導がそれらを身につけさせるため におこなわれているということが判明した。</p>
<p>(その他) 1. 就職試験にお ける数的処理分 野出題状況調査  2. 子供の頃の異 世代交流体験に 対する評価の年 収別比較  3. 文科系大学一 般教養物理入門 授業における工 夫  4. 大学等にお ける就職筆記試験</p>	<p>共著  単著  共著  共著</p>	<p>平成28年6 月  平成28年11 月  平成28年11 月  平成29年2 月</p>	<p>日本ビジネス実務学会 第35回全国大会 (金城学院大学)  日本世代間交流学会 第7回全国大会口頭発 表  第45回物理教育研究 集会(大阪市立科学 館)  日本ビジネス実務学 会近畿ブロック研究</p>	<p>SPI、公務員試験の出題傾向を調査した結 果、算数・数学の出題率が高いことが判明 した。小中学校の学習指導要領より、算数・ 数学は、その教科自身の内容を学ぶことを 目的としているのみならず、その教科を学 ぶことで培われる陶冶的な力である協調 性や論理性などを身につけることも目的 としている。また、国語と並んで他の教科 や活動の基礎となる教科である。そのた め、本研究では、上記就職試験での算数・ 数学出題の意図に、内容そのもののみなら ず、陶冶的に身につくような人間力の測定 もあるのではないかと結論付けた。 兵庫県内の成人男女に対しておこなった 「子供の頃の体験が大人になったときにも たらす効果」によるアンケート調査のう ちの世代間交流についての設問について、 年代ごとに年収別比較をおこなった。その 結果、世代間交流に対する評価の年収に よる差が30代女性において目立った。また、 未体験率は、低年収の方が、高くなる傾向 があることも分かった。 平成28年度は前年に引き続き、「入門物理 学1」において、「自由解答の応用問題演 習」と「コメントシート記入」という2つ の工夫を毎回の授業に追加して古典的ス パイラル授業方法を実践した。これら2つ の方法は学生から直接的に支持された。ま た、物理嫌いの改善は前年度の授業と同程 度であった。学力向上についても、基本問 題への効果は前年度と同程度であった。し かしながら、応用問題の正答率は減少する という結果となった。 本発表では、就職筆記試験対策における問 題点を「大学組織側」、「教職員側」から整</p>

<p>対策指導の問題点整理</p> <p>5. 私立文科系大学生向け一般教養の古典的スパイラル授業の改善</p>	共著	平成 29 年 3 月	<p>会口頭発表 (大手前大学)</p> <p>日本物理学会第 72 回 年次大会 (大阪大学)</p>	<p>理し、その解決策の提案をおこなう。</p> <p>文科系中堅私立総合大学における一般教養科目初級物理授業において、物理アレルギーを払しょくと、その内容を理解し物理の問題にある程度自力で取り組めるようになることをめざした「古典的スパイラル授業方法」を平成 27 年度と 28 年度に実践してみた。28 年度はさらに 2 つの工夫を加えた。これらの工夫は学生からは支持されたが、応用問題正答率は低下した。それらの原因と次年度の対策を考えた。</p>
<p>6. 大学等における就職筆記試験対策指導の問題点整理と事例紹介</p>	共著	平成 29 年 6 月	日本ビジネス実務学会 第 36 回全国大会 (神戸大学)	<p>本発表では、就職筆記試験対策における問題点を「大学組織側」、「教職員側」から整理し、その解決策の提案をおこなう。また、匿名でいくつかの大学の事例紹介もおこなう。</p>
<p>7. 近畿の大学・短期大学における秘書士資格・秘書検定の指導状況</p>	共著	平成 30 年 2 月	日本ビジネス実務学会近畿ブロック研究会口頭発表 (西宮大学交流センター)	<p>秘書士資格等、秘書検定等の近畿の大学・短大における指導率を全数調査にて分析した。その結果、秘書士資格等とビジネス実務士資格等、ビジネス検定等の指導率、指導傾向 (短大・女子大系が高く、完全共学には浸透していない) がほとんど同じであること。秘書検定は圧倒的に指導率が高く、短大で 36%、私立大学平均で 25%と浸透している。さらに、私立完全共学大にも 22%も浸透しており、短大・女子大系に強いという傾向は、その他、資格・検定と同様であるが、ある程度、男子学生にも浸透しているのではないかと推定できる結果を得た。</p>
<p>8. FDer 参観による文科系大学初年次基礎的数学授業の改善提案</p>	共著	平成 30 年 3 月	第 24 回大学教育研究フォーラム口頭発表 (京都大学)	<p>代表者は文科系私立大の初年次生に対する基礎的数学授業を 4 年間おこなってきた。学生の多くは数学の基礎学力と学習習慣が不足している。そのような中、就職対策を動機づけとした古典的スパイラル授業をおこない、学生評価も比較的良好。春学期全回授業を FDer に見学してもらいその問題点の指摘と改善案の提案をもらった。</p>
<p>9. やる気度チェックシートを利用した文科系大学一般教養物理授業の実践</p>	共著	平成 30 年 3 月	日本物理学会第 73 回 年次大会・東京理科大学野田キャンパス	<p>文科系私立大学において、「学生に物理好きになってもらう」「簡単な物理の内容を理解してもらう」ことを目標に一般教養物理授業をおこなっている。2017 年度はこれまでの工夫に加え、新たに「やる気度チェックシート (全学生へのフィードバ</p>



10. 近畿の大学・短期大学における秘書士資格・秘書検定の指導状況の分析	共著	平成 30 年 6 月	日本ビジネス実務学会 第 37 回全国大会 (徳島文理大学)	ックを含む)」を利用すること、「座席指定」をすることにした。その結果、文科系大学生対象の大人数で講義形式の一般教養物理授業において、「やる気度チェックシート」の利用と「座席指定」が教育目標達成に効果的であることが示唆された。 本発表では、就職筆記試験対策における問題点を「大学組織側」、「教職員側」から整理し、その解決策の提案をおこなう。また、匿名でいくつかの大学の事例紹介もおこなう。
11. 全学アンケート調査の授業改善への活用	単著	平成 30 年 8 月	第 7 回 MIIR 研究集会 (国立情報学研究所)	文科系大学生対象の一般教養大人数授業「数的処理の基礎」において、古典的繰り返し学習を特徴とする授業をおこなった。そこで、双方向コミュニケーションを取り入れる、座席指定をするなど様々な工夫を毎年追加しながら授業改善をおこなってきた。主として全学アンケート調査データをもとにこれら改善の効果を分析した結果、繰り返し学習や座席指定、双方向コミュニケーションは学生の理解度や満足度、授業態度により影響を及ぼすことが推定できた。
12. 秘書関連資格・検定取得の将来における効果	共著	平成 31 年 2 月	日本ビジネス実務学会近畿ブロック研究会 口頭発表(新大阪丸ビル)	秘書関連資格・検定取得の効果を調査中である。現在、先行研究調査、アンケート作成、調査までを完了した。
13. 大人数授業における「座席指定」と「コメントシート利用」効果の分析	共著	平成 31 年 3 月	第 25 回大学教育研究フォーラム口頭発表 (京都大学)	一般教養授業「数的処理の基礎」において、受講者数増に伴い、新たな工夫「座席指定」と「コメントシートの利用」を取り入れた。これまで、全学授業アンケート結果のデータを簡単報告してきた。今回は、調査の値に、これらの工夫がどの程度効果をもたらすか詳細に分析した。
14. 秘書関連のビジネス資格・検定についてのアンケート調査報告 ～社会人を対象とした調査から～	共著	令和元年 6 月	日本ビジネス実務学会 第 38 回全国大会 (目白大学)	どうして女子のイメージのある秘書関連の資格・検定がどのように広範囲な高等教育機関で指導されているのかをそれらの取得効果から推定するために、社会人対象に調査をおこなった。発表では、それらの基本統計量を速報し、秘書関連資格・検定とその内容がどう考えられているかを概観する。
15. 秘書関連のビジネス資格・検定に対する社会人の認識～自由記述結果から	共著	令和元年 6 月	日本ビジネス実務学会 第 38 回全国大会 (目白大学)	上記調査のビジネス系関連の資格取得に関する社会人の認識に注目し、自由記述結果を中心にその特徴を報告する。

23. 秘書関連資格・検定取得の将来における効果～社会人に対するアンケート調査の統計分析	共著	令和2年2月	日本ビジネス実務学会近畿ブロック研究会口頭発表(大手前大学)	女性の割合がやや高く、かつ、20-50代が中心の社会人集団において、アンケート調査を行った。その結果、秘書士・秘書検定の内容については高い関心があること、特に、専門的な秘書業務の内容よりも社会人基礎となる汎用的な知識・技能(日常・接遇的内容)により関心が高いことが判明した。また、秘書検定の問題を知ったうえで、これらに関連する秘書関連資格・検定の取得を多くの人が希望し、特に、仕事を理由に希望するようになることが分かった。さらに、これらの取得で、社会人の基礎となる汎用的な知識・技能や人格形成的な能力が身につくと考えていることも分かった。特に前者の方が後者より強い傾向がある。
16. 秘書関連資格・検定資格取得がもたらす効果	共著	令和2年6月	日本ビジネス実務学会第39回全国大会(オンライン)	ビジネス関連資格の学習内容と社会人の認識を検討してみた。因子構造をみると、大学や短期大学にみられる秘書教育の基本である秘書の定型業務(日常業務)に対応していた。また、社会人はビジネス関連資格の学習内容をより肯定的にとらえており、資格非取得者のほうが顕著であったことが確認できた。
17. 秘書技能検定と秘書士等の社会人に対する認知度比較	共著	令和2年6月	日本ビジネス実務学会第39回全国大会ポスター(オンライン)	社会人に対する調査によって、秘書検技能検定と秘書士資格の取得割合について、前者のほうが大きいことが明らかになった。また、それらの学習内容を比較すると、前者のほうがより汎用的で、後者のほうがより秘書専門的な内容を含んでいることを確認した。分類された学習内容に対しては、両者共通内容への関心がきわめて高く、秘書士のみ専門的な学習内容については少々関心が高い程度であった。
18. キャリア教育・就職支援に秘書技能検定が果たす役割～3級の分類を通して	共著	令和3年2月	日本ビジネス実務学会近畿ブロック研究会口頭発表(オンライン)	秘書技能検定がキャリア教育・就職支援において果たす役割を探求するため、まずは、3級の3回分過去問題について、分類をおこなった。分類は4項目、経済産業省が提唱している3つの社会人基礎力「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」と別途「その他知識」とした。集計の結果、「考え抜く力」を問う問題が約半分を占めていて、単なる秘書技能知識ではなく一般的な「ジェネリックスキル」の養成に役立つ検定であることが確認できた。